

一二揚

[illegible]

ゆたから節

一二揚

2/2

一、真夜中どやしが夢に起くされてよ

※まゆなかどうやし

※いみにうくさりてい（よ）

覚めて恋しさや ありが姿

※さみていくいしさや

※ありがしがた

二、一人手枕に明かす夜の辛さ

※ふいちゆいていまくらに

※あかすゆーぬちらさ

あり（無蔵）が手枕に明かちみぶ

さ

※あり（んぞ）がていまくらに

※あかちみぶさ

三、無蔵が寢座敷に梅の花咲かち

※んぞがにざしちに

※んみぬはなさかち

鶯になやい忍でみぶさ

※うぐいしになやい

※しぬでいみぶさ

四、鳥やちよん飛ばん島とめて

※とういや ちよんとうばん

※しまとうめてい

無蔵と二人かながなと暮らちみぶさ

※んぞとうたいかながなとう

※くらちみぶさ